

O-33 当院における呼吸療法士の位置づけについて

医療法人仁愛会浦添総合病院 救急部

町田 尊、中村 哲、青野健治、福本泰三

【はじめに】当院では平成2年に米国の呼吸療法士の業務を参考にし、看護師の資格を有する呼吸療法士が誕生し、今年度呼吸療法士の専門性を生かす為、当部署において呼吸療法科科長が誕生した。地域医療支援病院として急性期医療における呼吸療法士の位置づけと今後の方向性について報告する。

【呼吸療法士が誕生してからの経過】平成2年、HCUにおける呼吸管理の充実を図るため米国の呼吸療法士の業務を参考に業務整理を行い、呼吸療法士を育成し始めた。平成4年には呼吸療法士が増員され、平成8年には透析センターより臨床工学技士が呼吸療法士を希望して配属された。平成9年には3学会合同呼吸療法認定士の資格を5人が修得した。平成11年には理学療法士1名が呼吸療法士として呼吸理学療法に携わった。

【呼吸療法士の業務内容】呼吸療法士の業務内容は人工呼吸管理、酸素療法、給湿療法・吸入療法、呼吸理学療法、血液ガス分析、気管カニューレ交換、H MV導入の教育、NPPV導入・管理、急性血液浄化療法、各種ME機器の保守管理などがある。

【近年における呼吸療法士の問題】救急外来スタッフの育成、新人教育においてのスタッフ育成、脳神経外科、心臓血管外科充実のため呼吸療法士がシステムの構築に関わり呼吸療法士の役割がとれなくなったが、平成13年度、地域医療支援病院としての急性期医療を担うため、呼吸管理の向上を目標として呼

吸療法科科長として専門性を生かす方向性が与えられた。

【呼吸療法士の役割】1)各種疾患での急性呼吸不全患者の管理において患者にとって最良の包括的呼吸管理が行え、より短期間での weaning plan や退院計画を実行する、2)co-medical を含め医師と共に定期的に各症例検討を行い、最善の呼吸療法を行う、3)患者および家族に対して呼吸療法に関する適切な教育的指導を行うことと co-medical や研修医に対して呼吸療法に関する最新で最善の情報を提供し教育的指導を行う、などが挙げられる。

【呼吸療法士の今後の方向性】1) intensive respiratory care を必要とする患者の主治医をサポートし、呼吸管理プランのガイドラインを作成し、挿管から各種人工呼吸モードの変更、更に抜管までの standardized indication を樹立する、2)受患者への質の提供ができるための呼吸療法士育成を強化する、3)呼吸理学療法担当は intensive respiratory care の初期から ADL の低下による廃用症候群の発症を防止すべくリハビリテーションプランを立て実行する、4)長期人工呼吸器装着患者のQOL向上のために支援づくりを強化する。以上のことを踏まえ、呼吸療法士という専門性の職種を生かし、呼吸管理の質の向上に努めていくことが呼吸療法医療体制を構築することに繋がり、患者サービスに貢献できると期待する。